平成 5年 8月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel.0428-23-6859)

夏の花ふたつ

◎サルスベリ

さるすべり ラジオのほかに 声もなし 作者不明

30数年も前の小学校の国語の教科書にこんな俳句がありました。夏の炎天下の昼下がり、風も人影もまったく無い庭に咲くサルスベリの花が目には浮かぶようです。それも民家の庭ではなくお寺の庭のほうが似合っています。

中国の南部が原産で、わが国には江戸時代に輸入されて各地に広まりました。外国生まれの花々が次から次へと入ってきている近ごろとちがい、鎖国の時代、遠来のこの花を初めて見た当時の人々の目にはたいへん珍しいものと映ったことでしょう。また、さらにその樹肌にちなんでつけられた、そのものずばりのサルスベリという名も人々の好奇心をとらえたことと思われれます。

別名、ヒヤクジッコウ（百日紅）と呼ばれるように梅雨の盛り7月の初めには咲き初め、真夏に花盛りになって9月の末ごろまで延々と咲き続けます。花の色に多少の濃淡の差はあっても赤色がふつうですが白花もあり、また、狭い庭でも楽しめる矮性種の鉢植えも近頃多く見られるようになりました。

◎ムクゲ（ハチス）

これも暑いあいだ次々と咲き続けます。しかし、栄華がはかないことを『^{きんか}権花一日の栄え』（権花はムクゲ）と言うように朝、開いた花は、その日の夕方には散ってしまいます。これはこの仲間であるフヨウ、モミジアオイ、ハイビスカスなどにも共通した性質ですが、このはかなさが、わびの世界に取り込まれて古くから茶花として大切にされてきました。花色はふつう紫紅色ですが白色のもの、花の底の部分が紅色のもの（これは宗旦むくげと呼ばれて珍重されています）、八重咲きのものなどがあります。庭木または生け垣としてよく植えられていて、その枝が道まではみ出ているのを見かけますが花の美しさにひかれて通りすがりに一枝を失敬しようとしても樹皮がたいへん強靱で手折ることは不可能です。そこで、この性質を利用して各地で畑の境界木として植えられてきました。青梅市内でもよく見かけますがムクゲというより別名のハチスのほうが通りがいいようです。

原産地は中国およびインドで、サルスベリより、かなり古くにわが国へ伝わりました。素人にも挿し木で簡単に殖やせることが、この花の根強い人気のもとでしょう。

お隣りの中国ではムクゲは国花とされ、金浦国際空港にはたくさん植えられていて、夏にそこを訪れる人々の目を楽しませてくれるそうです。

(文責 中西 勲)